

ウシ腔内留置型ホルモン製剤に着目した繁殖技術向上に関する研究

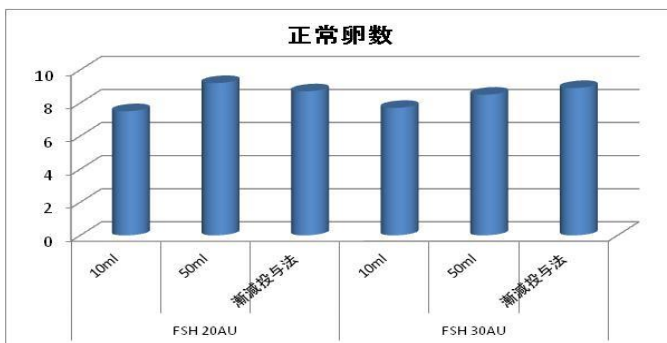
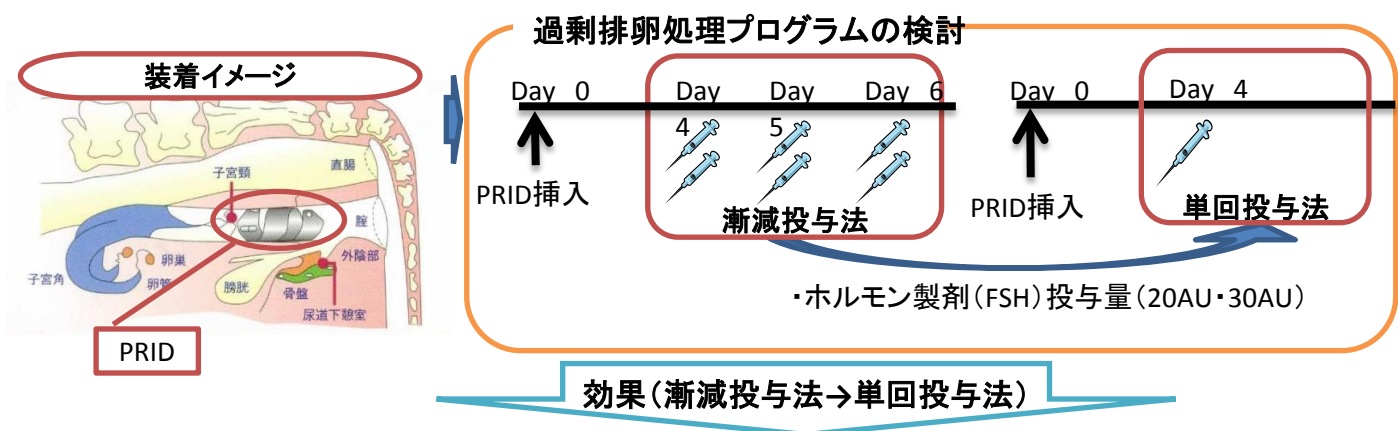
畜産研究部

1. 研究の背景

ウシ受精卵は、ホルモン製剤（FSH）を用いた過剰排卵処理により生産される。その処理行程は、12時間のインターバルによる3～4日間の漸減投与法で、ウシへのストレス及び作業員への負担が大きい。また、ウシへのストレスに起因する受精卵の品質低下も問題視されている。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

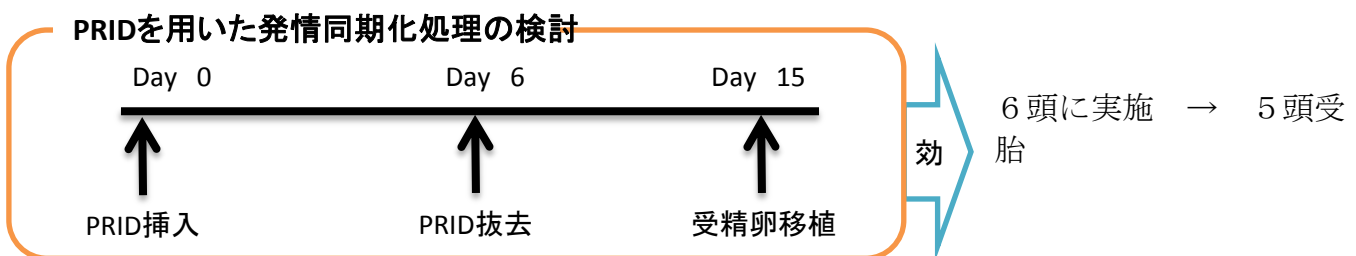
ウシ腔内留置型ホルモン製剤（PRID）を活用した、ウシとヒトにやさしい過剰排卵処理プログラムの検討を実施。また、同製剤を用いた新鮮卵移植用の発情同期化処理についても検討



☆ホルモン量 (20AU or 30AU) による差はなし。
☆溶媒量 (10ml or 50ml) による差はなし。

↓
単回投与法で過剰排卵効果 有り

☆作業員の拘束時間が 1 / 6 に削減



3. 期待される効果

過剰排卵処理時間の削減
発情同期化処理により、新鮮受精卵移植が可能(受胎率アップ)

4. 担当機関連絡先

畜産研究部 肉用牛・酪農チーム
TEL: 0974-76-1216
住所: 竹田市久住町大字久住3989-1